

P122

○磯貝雅道・中村達都・渡邊学・山岸紀子・吉川信幸

Blueberry latent virus の日本のハイブッシュブルーベリーからの検出

Isogai, M Nakamura, T. Watanabe, M. Yamagishi, N. and Yoshikawa, N.: Detection of Blueberry latent virus from highbush blueberry trees in Japan.

Blueberry latent virus (BBLV)は新しい科に分類され则认为られているが、その性質には未知な点が多い。日本のブルーベリー圃場で無病徴のハイブッシュブルーベリー樹を調査すると、約 30%の割合で BBLV が検出された。日本の BBLV 株をゲノム解析すると、全長 3,434 塩基対の二本鎖 RNA で、アメリカ株のゲノムと 100-99.9%相同性を持っているが、5'末端が 3 塩基長かった。in situ hybridization によりブルーベリー葉の切片を解析すると、ウイルス RNA は柵状組織、海綿状組織、維管束組織に局在していた。また、ウイルスゲノムの ORF1 タンパク質に対する抗体を用いたウエスタンブロットで解析すると、48 kDa のタンパク質が特異的にブルーベリー葉から検出された。そこで、イミュノゴールド電子顕微鏡観察すると、ORF1 タンパク質は、細胞質に蓄積していた。BBLV は、日本で未記載であるので和名をブルーベリー潜在ウイルスと提案したい。

(岩手大農)

【発表希望分野】「ウイルス・ウイロイド病」

【発表内容】「分類・同定」